

長雨の9月、晴れた日は真夏の暑さ…でしたね。心地よい季候は10月に期待しましょう。さて、今年のイギリス館コンサートは、初めての明確なテーマ「オペラ」を掲げ、とても好評でした！興味はあるけれど、観に行くには敷居の高いオペラを身近に感じたコンサートでした。秋の夜長、オペラ曲に耳を傾けて物語に想いを馳せるのもいいですね。

近況報告

先日の WienerWind コンサートでも書きましたが、日本は季節の移り変わりが穏やかで、また季節を感じる食べ物、イベントが豊富なことを楽しく感じています。お月見もその一つで、欧米文化で月は狂気を誘うもの、集団で月を眺めるなんて黒魔術の儀式と間違われそうで（実際そういった儀式は多数存在する）、月を見ていると魅入られないようにね…とよくたしなめられましたが、やはり日本人、満月は綺麗だと月を愛でる文化が性にあるようです。

9月16日には母校横浜国立大学附属中学校の70周年記念式典が県立音楽堂で行われ、式典にて1時間の記念演奏をしてきました。思えば約20年も前のあの頃すでにヴァイオリニストになるために日々格闘し、それが変わらずに続いていること、改めて小さいころからの夢の道を歩き、夢の先を追いかけられている、今が嬉しく、ここまで様々な応援をしてくださった方たちに感謝の気持ちでいっぱいです。

【伊都】

Wiener Wind 「ヴァイオリンが歌うオペラの名曲」

TRAUBEN 主催のイギリス館コンサートは今年で8回目を迎え、9月3日、小雨模様の港の見える丘で始まりました。今年のテーマは「オペラ」。名曲目白押しのオペラ曲でヴァイオリン用に編曲されているものがたくさんあるということで、昨年もお願ひしたピアニストの加賀都喜乃さんとのコンビです。

中でも、1曲目ロッシーニ：オペラ「セビリアの理髪師」より「フィガロのアリア」と前半最後の曲サラサーテ：オペラ「魔笛」（モーツァルト作）によるファンタジーは「難曲ゆえに日本ではあまり演奏されない曲なのでとても弾きたかった」と伊都さんらしい気合いの入った選曲で、熱のこもった素晴らしい演奏でした。

そのほか、人気曲のプッチーニ：オペラ「トゥーランドット」より「誰も寝てはならぬ」はじめ、イタリア、ロシア、スペイン、フランス、ドイツ、オーストリアと、さながらヨーロッパ旅行のように様々な国の名曲を楽しむことができました。伊都さんのMCでは、それぞれのオペラの物語の解説があり、その面白さに、大いにオペラに興味を持てたコンサートになりました。

ヴァイオリンは最も人の声に近い楽器と言われますが、特に伊都さんのヴァイオリンは「歌う」ことが大きな特徴ですから、オペラ曲はとてもよく合います。これからも機会があればもっと弾いてほしい曲の数々でした。

第 14 回 加納伊都ヴァイオリンリサイタル

2016年12月22日（木） 18：30 開場 19：00 開演
横浜みなとみらいホール 小ホール

演奏曲 ベートーヴェン：スプリングソナタ
プロコフィエフ：ヴァイオリンソナタ第1番 ほか

今年はクリスマス三連休前夜です！
11月初旬頃ご案内をお送りします



いとちゃんの クラシック講座

op.25



ジャズミュージシャンと共演するようになって一番驚いたことは渡された楽譜に音符が書かれていない！ということ。クラシック音楽家にとって楽譜は命と言われ、いかに楽譜を読み込んで自分なりに解釈するかが演奏家の腕の見せどころ、練習はまず楽譜を細部まで目を皿のようにして見回すことから始まります。なのに五線譜に音符が書かれていない（あるいは数音）とはなんたることか！書いてあるのはコード進行を示すアルファベットと数字のみ。しかもその表記の仕方がクラシックと微妙に違う・・・と私には暗号のような楽譜を睨み付け音源をもとに悪戦苦闘、こんな感じははずとリハーサルに持って行くとあっさり、いやここは変えることにしたから！と一蹴、弾きながら断りもなく変わることも多々。これはジャズの醍醐味はその即興性にあるからで、演奏家は舞台上でどれだけ独自のオリジナリティーを出せるかに命がかかっているからと理解しているのですが、それでもやはり緻密で計算されつくした設計図から見事な建築物が生まれるように、音符と音符の間に、休符の位置に、思いもかけない曲の秘密や演奏のヒントが発見できる、そんな宝石箱のような楽譜を愛おしく思います。

【伊都】

Kamome Live Matters

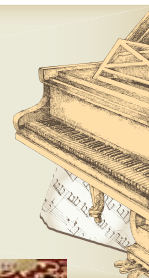
加納伊都
×
中村新史

10月22日(土) Start 19:00～(2 Stage)
Door Open 18:00

Charge: 3500円

Contact: <http://www.yokohama-kamome.com/>
045-662-5357

クラシック演奏家とジャズ
ミュージシャンのコラボレ
ーションは回を重ね、育った音
は料理に例えるなら「いい味」
が出てきました。
ぜひご賞味ください。



DVD Classic Collection

作品 No.27 「ムーラン・ルージュ」

2001年 アメリカ

貧乏作家と踊り子の悲しい恋物語



あらすじ

1900年パリ。作家志望のクリスチャン（ユアン・マクレガー）は芸術家達が集まるモンマルトルで自由と愛の物語を書こうとしていた。窓から見えるキャバレー「ムーラン・ルージュ」では、経営不振から、支配人とNo.1の踊り子サティーン（ニコール・キッドマン）が資産家の公爵を誘惑して新しい舞台を作ろうとしていたが、クリスチャンはサティーンに恋をしてしまった…。

見どころ

イギリス館で伊都さんが演奏した曲のオペラ「ラ・ボエーム」などをアレンジしたというこの映画、ビートルズ、エルトン・ジョン、マドンナなどお馴染みの歌を使い、ド派手なセットや衣装と目まぐるしい映像で、斬新なミュージカル映画と話題になった。画家として売れる前のローレックも登場する。悲恋物語なのにニコール・キッドマンのコメディータッチの演技も面白い。

感想

ユアン・マクレガーといえばスターウォーズのオビワンのイメージしかなかったが、恋に一途な青年役もピッタリ。しかも歌える！人だった。ニコール・キッドマンもちゃんと歌っている。二人で歌うオリジナル曲の「Come what may」はとても素敵な歌。なんで他の歌は既成ヒット曲なの？と思ってしまうが、貧乏な青年と美女と金持ちのもつれ…という金色夜叉風のわかりやすいラブストーリーだけなら、アカデミー作品賞にはノミネートされなかっただろう。

*DVDはTSUTAYAの店舗でレンタル可能な作品のみをご紹介します

編集後記 オペラとミュージカルは何が違うのでしょうか？ 作られた時代の違い、クラシック音楽かポピュラー音楽か、オーケストラやダンスの有無、生歌かマイクか、発声法の違い…など数々の違いがあるでしょう。／ オペラもミュージカルも作曲したレナード・バーンスタインによると「歌によってドラマが進行するのがオペラ。ドラマの結果としての感情を歌に託すのがミュージカル。」なのだそうで、なるほど説得力あるなと感心。／ いずれにせよ、どちらも歌と音楽、ドラマを媒体にして、観る者の心を動かす素晴らしい総合芸術ですね。／ ミュージカルの舞台を観る機会は増えましたが、オペラの舞台もぜひ一度観たいものです。 〈ゆ〉

発行：加納伊都後援会 TRAU BEN
〒231-0835 横浜市中区根岸加曽台 15
TEL: 045-622-6780
FAX: 045-621-6423
Email: trauben@itokanoh.com
Homepage: itokanoh.com